

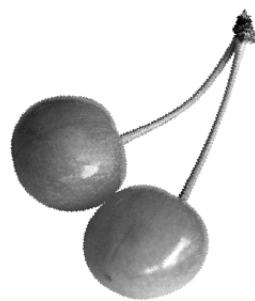
きちんと歯みがきしているよ

保育所では、毎日、給食とおやつの後には必ず歯みがきをしています。歯みがきの時間は「クルクル、ゴシゴシ、シュッシュ」の三つが合言葉。鏡を見て「大人の歯が生えたよ」と大喜び。みんなきちんと歯をみがいています。



【特集】サクランボづくりに挑戦

地域の活性化を目指し、久住でサクランボを栽培 稲田克忠さん（高尾 78歳）



久住でサクランボ 真っ赤な実がなる

地域のジゲおこしにつながれば。

久住地区でサクランボづくりに取り組んでいる稲田克忠さん。サクランボは、高温多湿や雨が苦手で、この地方では栽培が難しいとされています。

試行錯誤を繰り返しながら、地域の活性化を目指し、サクランボを栽培する稲田さんを紹介します。

赤い宝石みたいと 園児は大喜び

久住地区でサクランボづくりに取り組んでいる稲田克忠さん（高尾・78歳）が、経営しているサクランボ園（セルサル久住）に、6月6日、町内保育所の年長園児たちが招待されました。

園児38人は、農園の人たちにハウス内を案内してもらい、自分たちで採って、真っ赤に熟したサクランボを味わいました。

園児たちは「甘くておいしい。いくらでも食べられるよ」「赤い宝石みたいでとてもきれい」と言いながら何個も口の中にほお張っていました。

この保育園児サクランボ狩りは「子どもたちに真っ先に味わってほしい」と稲田さんが、一昨年から、食べごろになった6月上旬に町内保育園児を招待しています。

佐藤錦やナポレオン 226本を栽培

サクランボづくりは、平成2年ごろから栽培を始め、平成13年に本格的にオープン。当初30アールだった農園も、現在は70アールの県内最大規模を誇るようになりました。

園内には、ルビーのような美しさと甘さが特徴の「佐藤錦」や「ナポレオン」など全6品種、226本を栽培しています。



真っ赤に熟したサクランボにうれしそうな園児

秋には、さらに栽培面積を拡大し、ハウスを増設することになっています。

4月中旬ごろには 白い花が咲き乱れる

サクランボは、苗木（約50センチ）から、15年程度で成木になり、安定して実をつけるようになります。

4月中旬から下旬にかけて白い花が咲き、実をつけます。蜂を使って交配（受精）させ、6月上旬から中旬にかけて真っ赤に熟します。

農園にある木は、11年目の幼木で、もう少して、たくさん実るようになるのでは」と稲田さんは話します。

今年の出来は、全体の約1割程度。38年ぶりに5月下旬



栽培ハウスが一面に広がるサクランボ園



「はしゃぎながらサクランボ狩り」招待された園児たち

に発生した台風4号の大雨、強風によりかなりの実が落ちてしまいました。
 昨年は、気温が異常に高く、害虫が発生して全滅しましたが、一昨年は豊作。500人が農園に訪れるにぎわいをみせ、地域の活性化に一役かっています。

地域のジゲおこしに なればと栽培

稲田さんとサクランボの出会いは、老後の楽しみに何か新しいことに挑戦したいと考えていたころ、東北地方の旅行先で偶然サクランボを食べ、

その味に引かれました。「町の特産品になり、地域のジゲおこしにつながれば」と周辺地方にはなく希少価値の高いサクランボを町内で育てたいと約13年前年から栽培を始めました。
 サクランボは、標高が高く温度差が大きい寒い所を好むということ、久住地区に農園の場所を決めました。

多くの人に支えられ ここまでこれた

最初は、山形県でサクランボ園を経営する大沼満幸さんから、苗木を譲り受け植えましたが、排水不良や害虫発生で、うまく育たず全部枯れてしまいました。

その後、県農業改良普及所で果樹普及員をしていた横山正夫さん（岸本町）が、栽培に参加。山陰地方は、高温多湿と雨が多く、サクランボの栽培には不向きと言われていましたが、果樹栽培の知識を応用するとともに、山形県に何度も通って勉強したり、技術支援を受けながら今日まで栽培に取り組んできました。
 稲田さんは「山形県の大沼さん、横山さんはもとより、



愛情を込めてせん定する経営者の稲田さん

久住の皆様をはじめ多くの人々に支えられながら、ここまで実をつけるようになりました。心から感謝しています」と周囲の支えがあったからこそここまでこれたと話します。

安定して実をつけ 特産品にしたい

冬の時期を除けば、ほとん



日ごろの管理が欠かせない

ど農園に通い、サクランボの世話をしている稲田さん。園内を回るのが日課で、「木を見たら状態が分かるようになりました。愛着がわき、かわいいものです」と一本一本に声をかけ、変化があるとすぐに記録し、翌年に生かします。
 「農業経験なしで、植えれば実がなる程度の考えだった」と栽培を始めた当時を振り返り「失敗してあきらめていたら前には進めない。がんばれば必ず成功する。このことは、サクランボづくり以外にも言えること」と話し、今後の夢は「安定して実をつける技術を身につけたい。そして、町の特産品になればうれしいです。もうすぐ80歳、体力が続く限りがんばりたい」と抱負を語りました。

今年の町の課題を説明

5月27日、平成15年度自治会長会議を役場庁舎で開きました。

はじめに梅林町長が、市町村合併問題など今年度の町政の課題を説明。その後、各担当課から連絡事項について説明をしました。

【総務課】
自主防災組織の取り組みへー



各課からの説明を真剣に聞く自治会長

鳥取県西部地震などを教訓

に、自主防災組織の大切さが再認識されています。自主防災組織ができていないところは、組織化に向けた取り組みをお願いします。

全町一斉防災訓練ー

10月6日を防災の日と位置づけ、今年も10月6日(月)に全町一斉防災訓練をする予定です。

【企画振興課】

おくやみ放送の見直しー

防災行政無線で放送している「おくやみ放送」に告別式の日時・場所を追加します。
町内路線バスの利用をー

現在、町内では、生山・奥渡・真住・板井原・米子線の5路線のバスを運行しています。近年、バス利用者が減少し、乗車率が下がっています。今後の路線維持のため、積極的な利用をお願いします。

【健康福祉課】

健康診査の受診をー

自分の健康は自分で守りましょう。年に一度は必ず検診を受けるようにしましょう。

【農林課】

水田農業経営確立対策推進ー

1月に配分会議を開き、町全体で111ヘクタールを配分しました。転作の現地確認を7月上旬に実施します。

【地域整備課】

町道維持管理・除雪ー

バス路線、通学路などの幹

線道路、観光道路は町で草刈をします。その他の町道については、各自治会のご協力をお願いします。また、除雪作業は、昨年度同様、約20センチを超えた時に開始します。

【ごみの分別、減量化をー】
ごみを14種類に分別して回収していますが、氏名が書いてないもの、分別が不適切なものがあります。また、最近ごみの量が多くなってきました。各自治会でも減量化の取り組みをお願いします。

【環境美化運動の意識高揚をー】
環境美化の意識を高めるため、9月21日(日)に全町一斉クリーン作戦を実施します。各自治会においても積極的に取り組んでください。

【教育委員会】

町民体育祭の実施ー

9月28日(日)に根雨・黒坂両会場で町民体育祭を開きます。積極的に参加して体力づくりに努めましょう。

充実した会議の場に

説明後、出席者からの要望や意見がありました。防災無線の感度が悪くなってきた。

自治会のごみ回収場を町で

整備してもらうことはできないか。

名前の書いていない不燃ごみなどが多くなっている。町で処理してもらえるのか。自治会長の配布物が多くなっている。できるだけ少なくしてほしい。

町政の課題など話し合い、多くの意見を取り入れてもらえるような自治会長会議にしてはどうか。

町教育委員に

稲田さんが再任

町教育委員会委員に稲田満さん(上菅)の再任が町議会で同意されました。任期は、平成15年6月5日から4年間です。

教育委員会は、5人の委員(福田和也委員長)で組織され、町の教育行政などの方針を審議、決定する機関で、毎月定例会を開き、具体的な施策を検討しています。



教育委員
稲田満さん(上菅)

市町村合併問題

江府町との合併へ方向性を説明

市町村合併座談会に150人が参加、今後の町づくりについて話し合う



資料を見ながら説明に聞き入る参加者

市町村合併問題も江府町との2町合併へ方向性が決まり、

その経過を説明する市町村合併座談会を、6月9日、10日、山村開発センターと町公民館で開きました。

二つの会場には、合わせて150人が参加。合併問題について、町長、議長、担当課などが説明をしました。

はじめに、梅林町長が「今後、住民サービスを維持していくため、地域性、文化、歴史史的につながりが深い江府町

との合併を進めていきたい」とあいさつし、佐々木議長が「厳しい財政状況、少子高齢化が進んでいる。合併して地域社会の安定を図らなければならぬ」と合併の必要性を話しました。

その後、日野、江府両町の比較資料をもとに、財政状況、行政サービス、住民負担、合併した場合に対する国からの財政支援などの説明や中原明

議会合併問題調査特別委員長が、これまで議会が取り組んできた経過を説明しました。意見交換では、住民の皆さんから「どのような町づくりを考えているのか、住民にもっと周知してほしい」「住民一人ひとりの意見が反映されるよう取り組んでほしい」「法

法定協議会の早期設立へ

日野・江府の2町合併を考える合併勉強会が、6月13日、江府町で開かれ、両町の議員全員と町長ほか執行部が出席し、意見交換をしました。会では、両町が2町合併に

定協議会設置や合併する時期はいつなのか「早い情報提供を望む」など多くの意見が出ました。梅林町長は「今後も福祉の町づくりを進め、皆さんの意見を聞きながら合併を推進していきたい。積極的な参画をお願いします」と話しました。

ついての方針や法定協議会の早期設立などの意思を確認しました。6月下旬に再度勉強会が開かれ、法定協議会設立に向け、準備委員会の発足を予定しています。

議長に佐々木秀明さん

副議長に竹永明文さんが

町議会議員改選後、初の臨時議会が5月23日に開かれ、議長、副議長、各常任委員会のメンバーなどが決まり、新しい議会体制がスタートしました。

竹永明文さん(48歳・安原)が就任(任期4年)しました。この日決まった各委員会(常任委員会の任期は2年)の構成は次のとおりです。

議長には、佐々木秀明さん(51歳・舟場)。副議長には、

議長 佐々木秀明
副議長 竹永 明文

敬称略



議長 佐々木秀明さん

(は委員長、は副委員長)
総務常任委員会 宮田和也、佐々木求、佐々木秀明、中原明
教育民生常任委員会 若林尚允、富谷進、佐々木周



副議長 竹永 明文さん

子、小谷博徳
経済常任委員会 生田正明、石田幹暢、竹永明文、安達幸博
議会運営委員会 富谷進、宮田和也、竹永明文、生田

正明、若林尚允
その他(主な委員のみ)
監査委員 安達幸博 西部
広域行政管理組合議会議員 佐々木秀明 日野病院組合議会議員 佐々木秀明、佐々木求、竹永明文、宮田和也、若林尚允 日野町、江府町、日南町衛生施設組合議会議員 石田幹暢、佐々木周子、安達幸博 消防委員会委員 生田正明、佐々木求、小谷博徳

大規模林道

日野・金城線が**開通**

かなぎ

野田 久住間の11・6キロが完成

野田と久住を結ぶ大規模林道日野・金城線の日野 溝口区間が完成し、開通式が6月6日、鵜の池湖畔広場で行わ

れました。開通したのは、大規模林道日野・金城線の日野 溝口区間で、野田地区から鵜の池沿



完成を祝いテープカットをする関係者

いを通り、矢倉峠（主要地方道日野・溝口線）を交差。溝口町との町境を通り久住地区を結ぶ、延長11・6キロ（日野町9・5キロ、溝口町2・1キロ）で、平成元年に着工し、およそ14年の歳月と、約67億2千万円の事業費を投じました。開通式には、日野、溝口町と緑資源公園の関係者約70人が出席。梅林町長が「交通の利便性、地域の振興に期待したい」とあいさつ。安全祈願の神事後は、記念碑の除幕、記念植樹、車両パレードがありました。久住地区は、鳥取県西部地震で、生活道路の県道が、山林崩落のため現在も不通。昨年1月から同林道は、う回路として利用されていました。今後、林業活動、生活道路として地域振興への貢献や災害時のう回路として期待されるとともに、鵜の池湖畔へのレクリエーション利用道路としても活用が期待されます。

みんなで公園をきれいに

黒坂カワコふれあい公園で清掃作業

6月の環境月間にあわせ、6月8日、公園美化住民一斉作業が、黒坂カワコふれあい



ていねいに草を取る参加者たち

公園で開かれました。この日は、子どもから高齢者まで約180人が参加。草刈道具を手にし、公園内の草やごみを一つひとつていねいに拾い集めました。

2時間の作業後には、とてもきれいな公園になりました。清掃活動は、地域住民で組織している公園管理委員会（恩田孝雄委員長）と黒坂連合区会（福田和也会長）が、地域の人に呼びかけ定期的に活動しています。

交通ルールやマナーを守って事故防止

街頭広報で交通安全を呼びかける

交通安全の意識を高めようと、春の交通安全運動期間中の5月12日、交通安全街頭広報が、根雨地区のショッピングセンターの駐車場で行われました。



一人ひとりに呼びかける

「交通安全対策協議会（会長、梅林町長）の会員ら20人が参加し、チラシなどを手渡しながら、歩く時も自転車で乗る時も交通ルールやマナーを守りましょう」と交通事故防止を呼びかけました。

昔ながらの手植えに挑戦

秋の収穫が楽しみ

5月中旬になると町内では、農業体験を通して自然とふれあってもらおうと、田植えの催しが開かれました。

それぞれ昔ながらの手植えで行われ、参加者は、泥んこになりながら苗をていねいに植え、農産物のできる過程を学びました。



泥んこになりながら田植えを楽しむ児童たち

**米づくりを体験し
農業の大切さを学ぶ**

自然と触れ合いながら作る喜びを学んでもらおうと、5月16日、根雨小学校田植え式が、同学校近くの水田で開かれました。

保護者たちの声援を受けながら、学年別に分かれ、水田約5㎡にもち米の一種、スズハラモチの苗をていねいに植えました。

児童たちは「田んぼの中は温かい」秋にはたくさん穂を

つけてほしい」などと言いつけたり、だらけになりながら楽しんでいました。

田植えは、勤労学習の一つとして毎年行われ、農業を使わない有機栽培で育てています。10月に刈り取り、来年の1月には、もちつきをして収穫を祝います。

**農業体験を通して
交流を深め情報発信**

農村体験を通して里山の良さを知ってもらおうと、5月18日、菅福地区のジゲおこし



山菜料理を囲み話もはずむ

グループによる「里山ものづくり大学（小谷博徳代表）」が開かれました。

初回のこの日は、田植えを体験しようとして、町外から9人が参加。同地区内にある小谷延明さん所有の水田20㎡に、12㎡に育ったコシヒカリの苗を植えました。

初めて田植えを体験した富田寛さん（米子市）は「今日は、植える苦労を通して、米一粒一粒の大切さを感じました。今後の催しにもぜひ参加したい」と話していました。

田植え後には、山菜料理などが振る舞われ、参加者は「こんなに山菜が採れる環境がうらやましい」などと料理を味わいながら、地元の人々と交流を深めていました。

今後、同大学は、炭焼きやソバ打ち、たくあん作りなど

年間を通してたくさん催しを企画。小谷代表は「自然豊かな里山は私たちの自慢です。農村体験を通して交流活動と情報発信を積極的にしていきたい」と話していました。

**田植え唄のリズムに
合わせて植える**

米づくりを通して自然と触れ合ってもらおうと、5月24日、田んぼの学校（日野高校主催）が、同学校の水田（約10㎡）で開かれました。

催しには、町内外から10人が参加。米子田植え唄保存会（石田千代子代表）による田植え唄のリズムに合わせてながら15㎡に育ったコシヒカリの苗を植えました。

田んぼの学校は、年間を通して、水田除草や井手川の水質調査などをする環境学習なども企画されています。



田植え唄が青空に響く

みんなのひろば

自分の気持ちを正直に話そう

人権・同和教育学習講座が始まる

人権同和教育について考えようと、5月16日、人権・同和教育学習講座が、山村開発センターで開かれました。第1回目の講座は、米子市

人権教育推進員の野口康雄さんを講師に迎え、「人権・同和教育の解決に向けて」と題して話を聞きました。

野口さんは、自分自身の体験をもとに「一人ひとりが考え方を変えていくことが大切。正直に気持ちを話せる自分に変わっていきましょう」と話しました。

参加した35人は、真剣に話を聞き、あらゆる差別について認識を深め、明るい町づくりについて考えました。

この講座は、人権同和教育の推進を図るつと、年間10回、それぞれテーマを決め、講師を招き学習します。



自分自身の体験をもとに話す野口さん

新緑の中で

さわやかな汗流す

奥渡公民館ウォーキング

自然の中を歩き、楽しみながら体力づくりをしようと、5月24日、奥渡公民館ウォーキング（遠藤雅人公民館長）が、同地区内で開かれました。

この日は、小学生から高齢者まで50人が参加。自分の体力にあわせ、4キロコースと5・6キロコースに分かれて歩きました。

参加者は「身近な自然を再発見した」などと言いながら新緑の景色を楽しみ、さわやかな汗を流しました。

歩いた後は、同公民館で懇親会が開かれ、世代を越えた交流を図りました。



身近な自然を楽しみながら歩く

地域の文化を体験

一番館手作り教室「平野流和紙ちぎり絵」



楽しみながら指先で和紙をちぎる参加者

り絵を作りました。参加者は、見本を参考にしながら、指先で色鮮やかな和紙をちぎり、「輪郭を毛羽立たせるのが難しい」「和紙が持つ独特の持ち味がとてもすてき」などと言いながら、ていねいに色紙に貼りつけていました。

出来上がった作品を見て、「この教室をとて楽しみにしていました。作品は大切に飾っておきます」「これ

を機会に、ちぎり絵を続けていきたいです」などと話していました。

この教室は、地域で活動している人を広く紹介し、体験してもらおうと出雲街道根雨宿一番館が企画。今後も毎月一、二回程度、講師を招いて開かれる予定になっています。

地域の文化を体験する根雨宿一番館手作り教室が、6月2日、根雨宿一番館で開かれました。

この日は、ちぎり絵教室が開かれ、町内外から19人が参加。講師に平野流和紙ちぎり絵の平野滋子さん（根雨）を招き、アジサイ、ツバキ、アサガオなどの花を題材にちぎ

色鮮やかなサツキ 来場者うつとり

町さつきまつり

色鮮やかなサツキが展示される第31回町さつきまつりが、6月5日から7日までの3日間、山村開発センターで開かれました。

町さつき研究会と町盆栽研究会の会員らが、丹精込めて育てたサツキ40点、盆栽16点が披露されました。

会場に訪れた人々は、白やピンクの色鮮やかなサツキにうつとりしていました。

受賞者（最優秀賞のみ紹介）
サツキの部 鈴木50年以上
中原武男さん（下榎） 同30年
から50年 関蔦夫さん（黒坂）
盆栽の部 中谷章二さん（黒坂）



色鮮やかなサツキに見とれる来場者



心をいやすやさしい音色が響きわたる

ピアノとびわの

華麗な競演

佐山雅弘・王晓東ライブ

ジャズピアノと中国びわの華麗な競演「佐山雅弘・王晓東」が、5月23日、町文化センターで開かれました。

佐山さんはピアノ、王さんは、古代シルクロードを渡り、中国に伝わったびわを演奏。民俗音楽「三国志」など全12曲を披露しました。

会場に詰めかけた150人は、ピアノと中国びわの奏でるやさしい音色にうつとり。来場者は「びわの生の音が聞けて良かった。心がいやされました」と話していました。

ハッスルプレーに

熱い声援

津地地区大運動会

体力増進と親睦を図ろうと、5月25日、津地地区大運動会（小谷順万公民館長）が、町運動広場（津地）で開かれました。

今年で22回を数える運動会には、同地区の子どもから高齢者まで約90人が参加。それぞれ各組に分かれて、水入れ競走や花吹雪、リレーなど13種目を楽しみ、さわやかな汗を流しました。

各種目とも、ハッスルプレーが続出。会場には、熱い声援が響きわたっていました。



みんながいっしょに花吹雪に熱中

子どもたちの週末はとても充実

楽しい子ども週末活動「魚釣り大会」「陶芸教室」



魚釣りの仕掛けを教わる小学生

この日は、水温が低く魚は釣れませんでした。子どもたちは「初めて魚釣りをした。水の流れる音が気持ち良かった」「釣れなくて残念。今度は家族で挑戦したいです」などと言いつつ釣りを楽しんでいました。

その後、公園内にある池に放されたニジマスのつかみ取りをして、楽しい時間を過ごしました。

6月7日には、町公民館で同活動の陶芸教室が開かれ、20人の子どもたちが参加。講師の指導を受けながら粘土をていねいに練り、皿や置き物などを作りました。



自分だけのオリジナル作品を作る

子どもたちに身近な川にふれあつてもらおうと、5月17日、川の学校「魚釣り大会」（子ども週末支援ボランティアセンター主催）が、黒坂カワコふれあい公園で開かれました。

小学1年生から中学生までの約40人が参加。講師に柴田滋さん（黒坂）を招き、日野川に住む魚の生態や釣り方などを学びました。

学習後、さつそく子どもたちは川の中に入り、釣りのエサとなる川虫を採って魚釣りに挑戦。それぞれグループに分かれて竿を出しました。

文化センター だより

図書館・ホール森の音楽隊

TEL 72-1300 FAX 72-1320

E-mail hinolib@infosakyu.ne.jp

月～金 午前9時30分～午後6時
土・日 午前9時～午後5時

図書館情報

カレンダー

7月

日	月	火	水	木	金	土
		①	2	3	4	5
6	7	⑧	9	10	11	12
13	14	⑮	16	17	18	19
20	⑳	㉑	23	24	25	26
27	28	㉒	30	㉓		

○印が休館日です

おしらせ

舞台技術ボランティア講座

6月25日(水)
午後7時～(要申し込み)
文化センターホール
講師 角本豊さん
図書館おはなし会
7月26日(土)
午前11時～
図書館

展示コーナー

わたしの
カントリーの世界
佐野美代子さん(津地)
カントリードール展
7月2日(水)
～30日(水)



インターネットで蔵書検索をどうぞ

http://aspcenter.infosakyu.ne.jp/lls/top.htm

7/25
(金)

人形劇団ブーク公演

なぜ?なぜ?ものがたり

しりたがりやのゾウさん

何でもかんでも知りたがる子どものゾウさんは「ワニは晩ご飯に何を食べるの」と変な質問をして、大人の動物たちを困らせています。だれも教えてくれないのでゾウさんは、ワニに聞きに行くことにしました。

この人形劇は、ルーミアアのタンダリカ人形劇場などで上演され、世界の子どもたちにも親しまれている作品です。親子そろってお楽しみください。



【日時】 7月25日(金) 2回上演
午前10時～(保育所団体鑑賞)
午後7時～

【場所】 文化センター

【チケット】

高校生以下 1,300円(当日1,500円)
一般 1,700円(当日2,000円)
親子ペア 2,500円(当日3,000円)
託児あります(要申し込み)

7/26

主催

有森裕子講演会

7月26日(土) 午後6時
入場無料(要整理券)

DOスポーツ

7/17

主催

健康づくり講演会

7月17日(木) 午後5時30分
講師 永末直文さん(鳥根医科大学副学長)

日野病院

7/13

7月13日(日) 午後2時
チケット 小学生以上500円(当日800円)

お芝居くらぶさん・ふいーど
「kyrie」(キリエ)
因伯演劇フェスティバル参加作品

6/29

主催

第7回日野川音楽祭

6月29日(日) 午後1時
チケット 500円

日野川音楽実行委員会

文化センターの催し

会場はすべて
文化センターです

7月 ぐらしのカレンダー

JULY (文月)



1 火	乳児健診 開発センター 受付午後1時30分～午後2時	15 火	古紙の収集日(黒坂・菅福地区)
2 水	ペットボトルの収集日(1・2・3班) ----- 転作現地確認日 午前9時～ 6月30日は黒坂・菅福地区 ----- 基本・結核・肺がん検診 町公民館	16 水	ペットボトルの収集日(7・8・9班)
3 木	転作現地確認日 午前9時～	17 木	すくすく親子教室 開発センター 午前9時30分～午前11時 お手玉とわらべ歌遊び
4 金	基本・結核・肺がん検診 青年の家・本郷公会堂	18 金	基本・結核・肺がん検診 開発センター
5 土		19 土	ねう祭り 根雨町内 午後6時～(大雨中止) ----- 行政相談 開発センター 午前9時～正午
6 日		20 日	
7 月	不燃・資源ゴミの収集日(黒坂・菅福地区) ----- 人権相談 開発センター 午後1時～午後3時 ----- 心配ごと相談・高齢者生活相談 開発センター・ 老人福祉センター 午前9時～午後3時 ----- 健康相談 町公民館 午前9時～午前10時	21 月	可燃ごみの収集は休みます (海の日)
8 火	ツベルクリン反応検査 開発センター 受付午後1時15分～午後1時30分	22 火	不燃粗大ごみの収集日(黒坂・菅福地区) ----- 健康相談 開発センター 午前9時～午前10時
9 水	ペットボトルの収集日(4・5・6班)	23 水	人権同和講演会「元気ができる人権同和教育について」 町公民館 午後7時30分～
10 木	B C G 予防接種 開発センター 受付午後1時15分～午後1時30分 ----- 不要犬・猫引取り日 日野保健所	24 木	不要犬・猫引取り日 日野保健所
11 金	基本・結核・肺がん検診 開発センター	25 金	人形劇団ブーク「しりたがりのゾウさん」 文化センター 午前10時～ 午後7時～(有料)
12 土	出雲街道根雨宿一番館土曜夜市 根雨宿一番館 午後6時30分～午後9時	26 土	有森裕子講演会 文化センター 午後6時～ 入場無料(要整理券) ----- 図書館おはなし会 図書館 午前11時～ ----- 出雲街道根雨宿一番館土曜夜市 根雨宿一番館 午後6時30分～午後9時
13 日	第58回日野郡民体育大会 日南町 ----- 開発センター休館日 ----- さんぷいりど公演「kylie」(キリエ) 文化センター 午後2時～	27 日	第26回鷓の池マラソン大会 鷓の池湖畔 受付午前9時～ スタート午前10時30分～ ----- 開発センター休館日
14 月	不燃・資源ゴミの収集日(根雨・日野地区) ----- 基本・結核・肺がん検診 老人憩いの家	28 月	古紙の収集日(根雨・日野地区)
		29 火	不燃粗大ごみの収集日(根雨・日野地区)
		30 水	
		31 木	固定資産税2期分納期限 国民健康保険税1期 分納期限 介護保険料1期分納期限 ----- 基本・結核・肺がん検診 開発センター

直 通 電 話	総務課	72 0331	企画振興課	72 0332
	地域整備課	72 2101	農林課	72 2102
	議会事務局	72 0335	農業委員会	72 2103
	給食センター	72 1167	福祉センター	72 2555
	根雨保育所	72 0238	日野保育所	72 1133

住民ふれあい課	72 0333	健康福祉課	72 0334
黒坂支所	74 0211	出納室	72 2105
教育委員会	72 2107	文化センター	72 1300
公民館	74 0212	下櫃集会所	72 1191
黒坂保育所	74 0225	夜間・休日	72 0331

町消防団赤バイ隊員

緊急走行時の腕を磨く

県交通機動隊を招き、運転技術向上を目指す

緊急走行時の安全意識を高めようと、日野町消防団（宮脇光男団長）が、6月4日、緊急消防自動二輪（赤バイ）の訓練を町運動広場駐車場（津地）で行いました。

この日は、県警交通機動隊白バイ隊員を講師に招き、緊急時の道路交通法やバイクの操作感覚など学びました。



規制されたコースを巧みなアクセルワークで通過



白バイ隊員から走行時のアドバイスを聞く団員

白バイ隊員の井田さんは「バイクの特性を知り、実践を想定して訓練することが大切」と話し、参加した団員10人は、規制されたコースの走行や停止姿勢を保つバランス訓練、実際にサイレンを鳴らしながら走行したりして運転技術を磨きました。

訓練に参加した佐野精彦さん（根雨）は、「バランスを取ったり、アクセルを調整するのが難しかった。今後、練習して慣れていきたいです」と話していました。

赤バイは、火災などの災害時に、早期の水利確認や情報収集活動などに活用しようと、4月に県内で初めて導入しました。

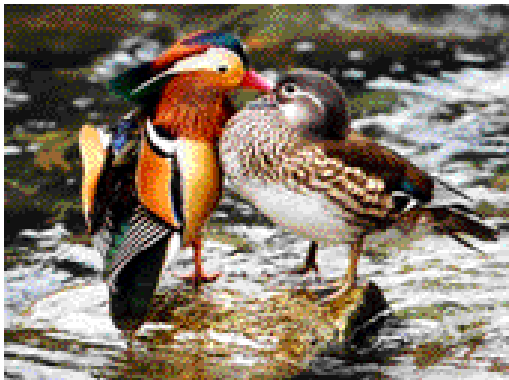
現在、赤バイ隊の団員は12人（安達幸博隊長）で、定期的に走行訓練などを行い、災害時にすばやく出動できるように訓練しています。

オシドリ

褒状を授賞

新緑の大山で、全国野鳥保護のつどいがありました。常陸の宮様ご臨席の席上、おしどりグループは会長褒状をいただきました。これもひとえに皆様方のご支援、ご理解、ご協力のたまものご心から感謝申し上げます。鳥にも人にも住みやすい町を目指して、大きな一歩を踏み出した感じでした。ありがとうございます。

連絡先 オシドリグループ
事務局 森田（72 0271）



「世界で君が1番だ」
撮影 稲田匡宏さん（根雨）

わたしの町

5月末日現在

（前月比）

人口	4,474人 (-7)
男性	2,115人 (-2)
女性	2,359人 (-5)
世帯数	1,566戸 (-3)

赤ちゃん誕生

（5月11日～6月10日）

おめでとございます

（出生児）	（保護者）	（性別）	（住所）
5月	久米 一樹	恵信・忠憲	男の子 根雨
5月	池本 朱里	俊朗・和子	女の子 本郷

おくやみ

（5月11日～6月10日）

ご冥福をお祈りします

（氏名）	（年齢）	（住所）
5月	三島 織枝	94歳 黒坂
5月	松原 三郎	87歳 根雨
6月	松本 秀雄	73歳 本郷
6月	西村 正人	77歳 安原
6月	菊田 重松	89歳 黒坂

編集後記 取材に行くといろいろなことを体験でき、その楽しさを皆さんに伝えようと日々原稿とにらめっこ。家に帰ると子どもは夢の中。せつない気持ちを抑え、いつか広報紙を見せたくてがんばっています。これから町の良さ・元気を紹介していきます。皆さんからの取材依頼、情報提供お待ちしております。